

2025 年度 日本陸上競技連盟競技規則 修改正案 <2025.2.15>

日本陸上競技連盟
競技運営委員会

(**太字** : 修改正、追加、挿入 ~~修改正前~~ : 削除 修改正前&修改正 : 移動)

【競技会規則 (CR)】

条文番号	修改正前	修改正
CR9 〔国内〕	—	4.ワールドランキングコンペティション定義 3. (b)により WARWJ を配置する必要がある時は、本連盟に事前に申告しなければならない。
CR10	—	〔国内〕 ワールドランキングコンペティション定義 3. (b)により 国際道路コース計測員 を配置する必要がある時は、本連盟に事前に申告しなければならない。
CR13	競歩記録員、警告掲示板係他競歩競技に必要な役員	競歩記録員、 競歩用 掲示板係他競歩競技に必要な役員
CR18.8 〔国際注意〕	特定の競技会の規程で認められる場合を除き、本条は視覚障がいのある競技者の伴走者の参加を認めることを意図するものではない。	特定の競技会の規程で 特に 認められる場合を除き、本条は視覚障がいのある競技者の ガイドランナー の参加を認めることを意図するものではない。
CR18.8 グリーン	但し、この規則は特定の競技会の規則で特に許可されている場合を除き、健全者の競技会でガイドランナーの使用を許可するものではないし、また審判長が TR6 に定められている事項に反した解釈をすることを認めているわけではない。	但し、この規則は審判長が TR6 に定められている事項に反した解釈をすることを認めているわけではない。
CR22.6	スターターまたはリコーラーはどのような不正でも確認したならば、…スターターに伝えなければならない。スターターはどの競技者に警告を与えるか、または失格とすべきか判断する。〔参照 TR16.7、16.10〕	スターターまたはリコーラーはどのような不正でも確認したならば、…スターターに伝えなければならない。スターターはどの競技者に警告を与えるか、または失格とすべきか判断する〔参照 TR16.7、16.10〕。 スタート時における不適切行為の判断は、審判長が行う〔参照 TR16.5〕。
CR25.4 表	r : 試技放棄・離脱 (フィールド競技・混成競技)	r : 試技放棄・離脱 (フィールド種目)
CR25.4 グリーン	‘r’ は競技者が怪我によって競技継続ができない場合、あるいは競技者がそれ以上競技を行わないと決めた場合に使用することを想定している。 … 試技放棄(離脱)は混成競技にも関連しており、その後に行なわれるトラック競技の組数にも影響を与える可能性がある。 …	‘r’ は競技者が怪我によってフィールド種目の競技継続ができない場合、あるいは競技者がそれ以上競技を行わないと決めた場合に使用することを想定している。 … (削除) …
CR29.1.1	〔国際〕 …その内容は少なくとも、各種目の招集場所、・第一招集・最終招集完了時刻、(最終) 招集場所から競技場所へ移動を開始する時刻について記載する。	〔国際〕 …その内容は少なくとも、各種目の招集場所、・ 招集所への入場開始時刻と入場締切時刻 、(最終) 招集場所から競技場所へ移動を開始する時刻について記載する。
CR31.3.5	… ドーピング検査に関連する文書(ドーピング管理フォームおよび対応する検査結果)は、入手次第、直ちに WA に送付するものとし、理想とすれば、記録申請の際に記載しなければならない世界記録申請書類一式と共に、 競技開催日を含め 30 日以内に WA 事務局に 発送されなければならない (CR31.6 参照)。	… ドーピング検査に関連する文書(ドーピング管理フォームおよび対応する検査結果)は、入手次第、直ちに WA に送付するものとし、 できれば世界記録申請書類一式と共に発送されなければならない (CR31.6 参照)。
CR31.10.3	世界記録が公認されたら、WA 事務総長は 新たな世界記録が承認されるたびに世界記録認定リストを更新する 。このリストに記載された記録は、…	世界記録が公認されたら、WA 事務総長は 世界記録認定リストを更新する 。このリストに記載された記録は、…

CR31.19	少なくとも3人のWAゴールド、シルバー、ブロンズレベルの競歩審判員が審判を務め、世界記録認定申請書に署名しなければならない。	少なくとも3人のWAゴールド または シルバーレベルの競歩審判員が審判を務め、世界記録認定申請書に署名しなければならない。																														
CR32	(追加)	<p>(2026年1月1日から)</p> <p><競歩></p> <table border="1" data-bbox="933 297 1516 624"> <thead> <tr> <th></th> <th>男子</th> <th>女子</th> <th>U20 男子</th> <th>U20 女子</th> <th>計時 方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハーフマラソン (トラック)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>写・手</td> </tr> <tr> <td>ハーフマラソン (道路)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>写・手 ト</td> </tr> <tr> <td>マラソン (トラック)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>写・手</td> </tr> <tr> <td>マラソン (道路)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>写・手 ト</td> </tr> </tbody> </table>		男子	女子	U20 男子	U20 女子	計時 方法	ハーフマラソン (トラック)	○	○	—	—	写・手	ハーフマラソン (道路)	○	○	—	—	写・手 ト	マラソン (トラック)	○	○	—	—	写・手	マラソン (道路)	○	○	—	—	写・手 ト
	男子	女子	U20 男子	U20 女子	計時 方法																											
ハーフマラソン (トラック)	○	○	—	—	写・手																											
ハーフマラソン (道路)	○	○	—	—	写・手 ト																											
マラソン (トラック)	○	○	—	—	写・手																											
マラソン (道路)	○	○	—	—	写・手 ト																											
CR32 〔注意〕	<p>男子の30,000m競歩の記録は、35,000m競歩の初回認定記録が掲載された段階で削除する。</p> <p>35,000m競歩： 記録の初回認定は2023年1月1日とし、男子は2時間22分00秒以内、女子は2時間38分00秒以内の記録を対象とする。</p> <p>35km競歩： 記録の初回認定は2023年1月1日とし、男子は2時間22分00秒以内の記録を対象とする。</p> <p>50,000m競歩： 記録の初回認定は2019年1月1日以降とし、4時間20分00秒以内の記録を対象とする。</p>	<p>ハーフマラソン競歩： 記録の初回認定は2026年1月1日とし、最初の世界記録認定にあたり、必要となる最低限の記録は2025年に公表される。 男子の30,000m競歩の記録は、35,000m競歩の初回認定記録が掲載された段階で削除する。</p> <p>35,000m競歩： 記録の初回認定は2023年1月1日とし、男子は2時間22分00秒以内、女子は2時間38分00秒以内の記録を対象とする。</p> <p>35km競歩： 記録の初回認定は2023年1月1日とし、男子は2時間22分00秒以内の記録を対象とする。</p> <p>マラソン競歩： 記録の初回認定は2026年1月1日とし、最初の世界記録認定にあたり、必要となる最低限の記録は2025年に公表される。</p> <p>50,000m競歩： 記録の初回認定は2019年1月1日以降とし、4時間20分00秒以内の記録を対象とする。</p>																														
CR34.4.6	競歩競技の日本記録については、少なくとも一人のJRWJ（日本陸連競歩審判員）以上の資格を持った競歩審判員が競技中歩型の判定を行い、日本記録申請書に署名しなければならない。	競歩競技の日本記録については、少なくとも 3人 のJRWJ（日本陸連競歩審判員）以上の資格を持った競歩審判員が競技中歩型の判定を行い、日本記録申請書に署名しなければならない。																														
CR34	(追加)	<p>(2026年1月1日から)</p> <p><競歩></p> <table border="1" data-bbox="933 1576 1516 1904"> <thead> <tr> <th></th> <th>男子</th> <th>女子</th> <th>公認 男子</th> <th>公認 女子</th> <th>計時 方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハーフマラソン (トラック)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>写・手</td> </tr> <tr> <td>ハーフマラソン (道路)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>写・手 ト</td> </tr> <tr> <td>マラソン (トラック)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>写・手</td> </tr> <tr> <td>マラソン (道路)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>写・手 ト</td> </tr> </tbody> </table>		男子	女子	公認 男子	公認 女子	計時 方法	ハーフマラソン (トラック)	○	○	○	○	写・手	ハーフマラソン (道路)	○	○	○	○	写・手 ト	マラソン (トラック)	○	○	○	○	写・手	マラソン (道路)	○	○	○	○	写・手 ト
	男子	女子	公認 男子	公認 女子	計時 方法																											
ハーフマラソン (トラック)	○	○	○	○	写・手																											
ハーフマラソン (道路)	○	○	○	○	写・手 ト																											
マラソン (トラック)	○	○	○	○	写・手																											
マラソン (道路)	○	○	○	○	写・手 ト																											

CR34.10 〔注意〕	(追加)	<p>vii 競歩競技のハーフマラソン、マラソンの日本記録の初回認定は2026年12月31日とする。</p> <p>vi WA は2024年から各国のナショナルレコード（日本記録）はWRk大会でマークされた記録のみを新たに認定することに伴い、2024年以降、非WRk競技会でマークされた日本記録がWRk競技会でマークされた記録を上回る場合には、以下の略号を付けて区別する。 (W)：WRk競技会でマークされた日本記録 (J)：非WRk競技会でマークされた日本記録</p>
-----------------	------	---

【競技規則（TR）】

条文番号	修正前	修正
TR1 グリーン	<p>大衆参加ランニング及びウォーキングイベントに関しては、これらの規則が完全に適用されるのは、イベントに参加するエリートカテゴリーの競技者または、主催者が何らかの理由によって指定したカテゴリーの競技者（例えば、賞金の対象となるなど）のみと規定される。</p> <p>しかし、競技会主催者は特に安全性の考慮事項に関して、特に交通が完全には遮断されていないレースの場合、様々なカテゴリーに適用される規則と手順を全ての参加者に提供する情報のなかで強調することが推奨される。</p>	<p>大衆参加ランニング及びウォーキングイベントに関しては、競技会主催者は特に安全性の考慮事項に関して、とりわけ交通が完全には遮断されていないレースの場合、様々なカテゴリーに適用される規則と手順を全ての参加者に提供する情報のなかで強調することが推奨される。</p>
TR5.2	<p>競技者が競技する時は、裸足でも競技用靴を履いてもよい。</p>	<p>競技者が競技する時は、裸足で、または片足もしくは両足に競技用靴を履いてもよい。</p>
TR6.3.1	<p>同一レースに参加していない者によってペースを得ること、周回遅れか、周回遅れになりそうな競技者がペースメーカーとして競技すること、あるいは（TR6.4.4で許されたものを除いて）あらゆる種類の技術的な装置によってペースを得ること。</p>	<p>同一レースに参加していない者によってペースを得ること、周回遅れか、周回遅れになりそうな競技者がペースメーカーとして競技すること、あるいは（TR6.4.4、6.4.8で許されたものを除いて）あらゆる種類の技術的な装置によってペースを得ること。</p>
TR8	—	<p>〔注釈〕 上訴を行うことができるのは、ジュリーが置かれている競技会のみである。</p>
TR8.2	<p>競技の結果または競技実施に関する抗議は、その種目の結果の正式発表後30分以内に行わなければならない。</p>	<p>競技（ラウンド）の結果または競技実施に関する抗議は、その競技（ラウンド）の結果の正式発表後30分以内に行わなければならない。</p>
TR8.6	<p>〔国際〕 フィールド競技において現場で抗議（競技中の抗議）が行われ、抗議中として競技を行なう競技者がいる場合、その抗議が認められれば競技を続けることができないはずの別の競技者も競技を続けることが認められた場合、抗議の扱いがどうなったかに関わらず、競技継続が認められた競技者の記録や最終成績は有効となる。</p>	<p>〔国際〕 フィールド競技において現場で抗議（競技中の抗議）が行われ、抗議中として競技を行なう競技者がいる場合、その抗議が認められれば競技を続けることができないはずの別の競技者も競技を続けることが認められた場合、抗議の扱いがどうなったかに関わらず、競技継続が認められた競技者の記録や最終成績は有効となる。</p> <p>〔国内〕 TR8.5を適用した場合は、当規則も適用する。</p>
TR8.6 グリーン	<p>TR8.6はフィールド種目だけでなく、全ての種目に適用される。</p>	<p>TR8.6の最初の段落の内容は、フィールド種目だけでなく、全ての種目に適用される。</p>
TR8.7 〔国際注意〕	<p>当該審判長は抗議に対する裁定を下した後、直ちにTICに対して裁定の時刻を通知しなければならない。 審判長が当該チーム・競技者に対して口頭で裁定を知らせることができなかった場合は、TICで訂正された結果、もしくは裁定結果を掲示した時刻をもって、公式発表が行われた時刻とする。</p>	<p>当該審判長は抗議に対する裁定を下した後、直ちにTICに対して裁定結果を申立者に対して伝達した時刻を通知しなければならない。 審判長が当該チーム・競技者に対して口頭で裁定を知らせることができなかった場合は、TICで訂正された結果もしくは裁定結果を掲示した時刻をもって、公式発表が行われた時刻とする。</p>
TR9.2	<p>TR9.1以外のその他の競技会で競技場内のみで行う競技では、男女混合の種目は通常では認めない。</p>	<p>TR9.1以外のその他の競技会で競技場内のみで行う競技では、男女混合の種目は通常では認めない。</p>

	<p>い。</p> <p>但し、ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)、(b)、(c) と 2. (a)、(b) 以外の競技会においては、以下の混合競技を認めることがある。ワールドランキングコンペティション定義 1. (c)、(d) と 2. (c)、(d)、(e) に該当する競技会においては、フィールド競技と以下 TR9.2.1 に述べる状況であれば、所管するエリア陸連の特別な許可により、常に男女混合競技が認められる。</p>	<p>但し、以下の場合は認められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワールドランキング競技会定義 1. (a)、(b)、(c) と 2. (a)、(b)、(c) の競技会において、当該種目に当該規則を適用することが規定されているフィールド競技。 ・ワールドランキング競技会定義 1. (d)、(e) と 2. (d)、(e) の競技会におけるフィールド競技と、TR 9.2.1 に基づいて行うことを所管するエリア陸連が特に許可している 5000m 以上のレース。 ・ワールドランキング競技会定義 3. の競技会におけるフィールド競技と、TR 9.2.1 に基づいて行うことを所管する各国陸連が特に許可している 5000m 以上のレース。
TR9.2 グリーン	<p>TR9.2.1 の目的は 5000m以上の長距離種目の実施を促進することであり、より長い種目で男女のいずれかまたは男女ともに少数の競技者が出場する場合や、より長い距離の種目（例えば、10,000m 以上の競歩競技）、タイムテーブルの制約により別々のレースを実施することが困難になる。</p> <p>この規則の目的は、女性競技者が男性競技者と競技する機会を提供することにより、潜在的により良い記録が出せる環境を作り出すことではない。</p> <p>誤解がないように補足すると、フィールド種目や 5000m 以上のレースでの混合競技会は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 全ての国内大会で認められ、適用可能な連盟の規則のみに従う。（エリア陸連からの追加の許可は必要ない。） ワールドランキングコンペティション定義 2. (d) に該当する競技会においては、関連するエリア陸連によって特別に許可されている場合に認められる。 ワールドランキングコンペティション定義 1. と 2. (a)、(b)、(c)、(e) に該当する競技会においては、フィールド競技で競技会に適用される規程で特に規定されていない場合は認められない。 <p>男女混合競技での世界記録の公認には制限がある。 ...</p>	<p>TR9.2.1 の目的は、男女のいずれかまたは男女ともに少人数の競技者が出場する場合に、5000m以上のレースの実施を容易にすることである。</p> <p>この規則の目的は、女性競技者が男性競技者と競技する機会を提供することにより、潜在的により良い記録が出せる環境を作り出すことではない。</p> <p>男女混合競技とは以下の競技である。</p> <ol style="list-style-type: none"> すべての国内競技会においては、フィールド競技および TR9.2.1 に従って行われる 5000m 以上のレースでは所管する各国陸連によって特別に許可されている競技。（エリア陸連からの追加の許可は必要ない。） ワールドランキングコンペティション定義 1. (d)、(e) と 2. (d)、(e) に該当する競技会においては、フィールド競技および所管するエリア陸連によって特別に許可されている TR9.2.1 に従って行われる 5000m 以上のレース。 ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)、(b)、(c) と 2. (a)、(b)、(c)、(e) に該当する競技会においては、フィールド競技に関して、当該競技会に適用される規則にその旨が規定されていない場合は認められない。 <p>男女混合競技での世界記録の公認には制限がある。 ...</p>
TR11.4 〔国内〕	—	<p>上位大会出場の進出者を決める際に同順位が複数いて、その中から選出する必要がある場合、その選出方法は主催者が決めることができる。選出方法は抽選に加え、追加レースや追加試技を行うこともできる。</p> <p>追加レースや追加試技で達成された記録は、当該競技会での順位決定とは無関係であるが、個人（チーム）の最高記録、ランキング、参加標準記録といった目的では有効なものとして取り扱われる。</p>
TR12 グリーン	<p>...</p> <p>同様に、監察員またはトラック審判長が規則違反の可能性を報告している場合は、ビデオ審判長によって確認され、適切な助言と決定がなされる。</p>	<p>...</p> <p>同様に、監察員またはトラック審判長および競歩競技審判長が規則違反の可能性を報告している場合は、ビデオ審判長によって確認され、適切な助言と決定がなされる。</p>

TR14.1	… 縁石を撤去しコーンまたは旗で代用する（代用縁石を含む）方法は、水濠を越えるためにメイントラックを離れる障害物競走、TR17.5.2による第1グループと第2グループの走路の境界、縁石設置のない直走路にも適用されなくてはならない。後者の場合は（コーン、旗または代用縁石を置く）間隔が10mを超えないようにする。	… 縁石を撤去しコーンまたは旗で代用する（代用縁石を含む）方法は、 障害物競走で水濠を越えるためにメイントラックを離れる部分と TR17.5.2による第1グループと第2グループの走路の境界部分に適用される。後者の場合、直走路にもコーン、旗または代用縁石を置くことも選択できるが、その間隔は10mを超えないように設置する。
TR14.1	〔国際－注意〕 曲走路から直走路または直走路から曲走路にトラックから迂回する地点は、計測員によって白線上に50mm×50mmの見分けのつく色で示され、レース中は1レーンの内側の線上にコーンを設置しなければならない。	〔注意〕 曲走路から直走路または直走路から曲走路に変わるすべてのポイントには、1レーン内側のラインの白線上に、あらかじめ検定された50mm×50mmの明確な色でマークされ、レース中はそれらのポイントのトラック内側の延長線上にコーンを設置する。
TR16.2	以下の〔注意〕に記載された競技会を除く全ての競技会において、スターターは開催する国や地域の言語、英語またはフランス語で合図しなければならない。 〔注意〕 ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)、(b)、(c)、(d) と 2. (d) に該当する競技会ならびに本連盟が主催、共催する競技会においては、スターターの合図は英語のみとする。	ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)、(b)、(c)、(d) と 2. (d) に該当する競技会においては、スターターの合図は英語のみとする。その他の競技会では、スターターの合図は開催する国や地域の言語、英語、フランス語で行うものとする。 〔国内〕 スターターの合図は一部の用語を除き、英語とする。
TR16.8 〔注意〕	… 不正スタートがどの競技者の責にも帰すべきものでなければ、警告は与えないでグリーンカード（旗）を競技者全員に見せる。	… スタートのリコールやスタートを中止した理由がどの競技者の責にも帰すべきものでなければ、警告は与えないでグリーンカード（旗）を競技者全員に見せる。
TR17.5.1 〔国内〕 iii	（追加）	500m 競走は完全セパレートレーンで行う。第二曲走路に100mのスタートラインを基準とした階段スタートラインを設定する。当該競技が実施できるのは、スタート位置の標識が設置されている競技場に限る。
TR17.5.1 〔国内〕 iv	（追加）	600m 競走はセパレートレーンでスタートし、途中からオープンレーンで行う。第二曲走路に400mと同様の階段スタートラインを対称的に設定する。300mまでは（曲走路を2回走るまでは）セパレートレーンとし、通常の800m競走のブレイクラインからオープンレーンとする。当該種目のスタート位置は、メドレーリレーの1走のスタート位置と同じであり、その標識が設置されている競技場に限る。
TR17.5.2	1,000m、3,000mと5,000m（内水濠で行う3000m障害での適用も可）におけるグループスタートの場合、…マークを置かなくてはならない。このマークは50mm×50mmとし、第4レーン外側（6レーンのトラックでは第3レーン外側）のライン上に置き、…。	1,000m、3,000mと5,000m（内水濠で行う3000m障害での適用も可）におけるグループスタートの場合、…マークを置かなくてはならない。このマーク（ブレイクポイント）は50mm×50mmとし、第4レーン外側（6レーンのトラックでは第3レーン外側）のライン上に置き、…。
TR17.5.2 グリーン	b：競技者がTR17.5に違反し、ブレイクラインの手前やグループスタートで決められた位置の手前で内側を走った。	b：競技者がTR17.5に違反し、走るように指定されたレーンから、またはグループスタートでトラックの外側のレーンから、ブレイクラインまたはブレイクポイントの手前で内側に入った。
TR17.7	規則に違反しているマーカーや物があれば、規則に合わせるよう、あるいは剥がしたり動かしたりするよう、審判員は当該競技者を指導しなければならない。指導に従わない場合には、審判員が取り除かなければならない。	規則に違反しているマーカーや物があれば、規則に合わせるよう、あるいは剥がしたり動かしたりするよう、 監察員 は当該競技者を指導しなければならない。指導に従わない場合には、 監察員 が取り除かなければならない。

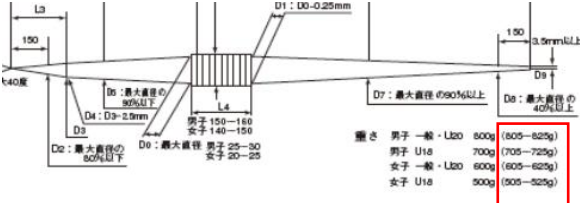
TR17.12 〔国内〕	i 55m 5 秒間 55m ハードル 5 秒間	i 55m 5 秒間 55m ハードル 5 秒間 150m 10 秒間 (計測方法は 200m と同じ)
TR17.15.3	競技者はいつでも、スタート地点や主催者が設置した供給所で受取った水や飲食物を手を持ちたり身体につけたりして持ち運んでもよい。	競技者は、 スタート地点から持ち込んだり 、主催者が設置した供給所で受取ったりした水や飲食物を、 いつでも 手を持ちたり身体につけたりして 競技を行ってよい 。
TR19 章見出し	計時と写真判定	計時
TR20.1	トラック競技における予選は、参加競技者が多数のため、決勝 1 回では満身に競技を行うことができない時に行う。 予選ラウンドを行う場合、全競技者が参加し、予選の結果によって次のラウンドに進むようにしなければならない。競技会統括団体は一つあるいは複数の種目で、その競技会の中で、あるいはそれに先立つ別の競技会の結果で、参加資格を与える競技者の一部または全部を決め、その競技会のどのラウンドから出場することができるかを定める権限を持つ。 どの競技者に参加資格を与え、どのラウンドから出場できるかという手順や考え方(特定の期間に達成された参加標準記録、指定競技会での順位やランキング等)については、各競技会の大会要項等に記載されなければならない。 〔注意〕 TR8.4.3 参照。	トラック競技における予選は、参加競技者が多数のため、決勝 1 回では満身に競技を行うことができない時に行う。 予選ラウンドを行う場合、全競技者が参加し、予選の結果によって次のラウンドに進むようにしなければならない。 但し、競技会統括団体は、一つあるいは複数の種目で参加資格を与える競技者の一部または全部を決め、その競技会のどのラウンドから出場することができるかを定めるために、その競技会の中で、あるいはそれに先立つ別の競技会で予選ラウンドを行う権限を持つ。 どの競技者に参加資格を与え、どのラウンドから出場できるかという手順や考え方(特定の期間に達成された参加標準記録、指定競技会での順位やランキング等)については、各競技会の大会要項等に記載されなければならない。 〔注意〕 i TR8.4.3 参照。 ii 追加の予選ラウンドには、予備予選ラウンドおよび敗者復活ラウンドを含むことができる。
TR20.2.3 〔国際〕	番組編成にあたってはできるだけ全競技者の成績を考慮し、もっともよい記録を持っている競技者が決勝に残れるように編成することが望ましい。	予選ラウンドが実施される際の 組編成にあたってはできるだけ全競技者の成績を考慮し、もっともよい記録を持っている競技者が決勝に残れるように編成することが望ましい。 <u>これには、可能な限り同じ加盟団体またはチームの競技者だけでなく、ランキングの上位記録(一般的には参加標準記録有効期間の記録で決定されるが、直近の優れた記録なども考慮される)を持つ競技者が予選の同じ組に入らないようにすることも含まれる。</u> <u>こうした組合せの調整は、番組編成の原案が出た直後に、レーンを決める前に行う必要がある。こうした変更を行った後、各組のレベルが可能な限り均等になっているか最終チェックを行う。</u> <u>これらの原則を適用する際には、競技者の入替えは、</u> a. <u>最初のラウンドでは、所定の期間中に有効な最も良い記録のリストで同様のランキングを有する競技者間で、</u> b. <u>以降のラウンドでは、TR20.4.3~20.4.5 に従って同じ「レーングループ」に編成された競技者間で、</u> 行う。
TR20.2 グリーン	予選ラウンドは、次のラウンドに進み、最終的に決勝に進出する競技者を可能な限り最良の方法で決定しなければならない。これには同じメンバーまたはチームの競技者だけでなく、上位記録を保持した競技者(一般的には参	(TR20.2.3〔国際〕へ移動)

	<p>加標準記録有効期間の記録で決定されるが、直近の顕著な記録などもまた考慮される)が予選の同じ組に入らないよう可能な限り配慮することも含まれる。</p> <p>適用される規則で別に定めがない限り、主要競技会で組み合わせの基本となるのは、少なくとも事前に決められた期間中の有効な条件（関連種目での風速を含む）で、各競技者が達成した最も良い記録でなければならない。この期間は通常、競技会に適用される規則または競技会のエントリー条件と基準を定めた文書に明記される。そうした基準が明記されていない場合、技術代表または主催者が一つの、一部の、あるいは全ての競技に適用する代替期間や規準を定めない限り、「シーズンベスト」を使用する。</p> <p>…</p> <p>優勝候補者とみなされる競技者同士の予選ラウンドでの対決を避けるために、同様の原則を適用すべきである。同時に、同じ加盟団体またはチームの競技者が異なる組になるよう調整する必要がある。</p> <p>このような場合、組合せの調整は組分けの原案が出た直後に、レーンを決める前に行うべきである。これらの原則を適用する際には、競技者の入れ替えは、</p> <p>a. 最初のラウンドにおいては、あらかじめ決められた期間中に有効な最も良い記録のリストで同様のランキングを有する競技者との間で、</p> <p>b. 次のラウンドにおいては、TR20.4.3～20.4.5 に基づく同様のランキングを有する競技者の間で、行う。</p> <p>これらの原則に従うことは、…。</p>	<p>適用される規則で別途規定されない限り、主要競技会で組み合わせの基本となるのは、少なくとも事前に決められた期間中の有効な条件（関連種目での風速を含む）で、各競技者が達成した最も良い記録でなければならない。この期間は通常、競技会に適用される規則または競技会のエントリー条件と基準を定めた文書に明記される。そうした基準が明記されていない場合、技術代表または主催者が一つの、一部の、あるいは全ての競技に適用する代替期間や規準を定めない限り、「シーズンベスト」を使用する。</p> <p>…</p> <p>優勝候補者とみなされる競技者同士の予選ラウンドでの対決を避けるために、同様の原則を適用すべきである。同時に、同じ加盟団体またはチームの競技者が異なる組になるよう調整する必要がある。</p> <p>(TR20.2.3〔国際〕へ移動)</p> <p>これらの原則に従うことは、…。</p>
TR20.3.1	最初のラウンドにおいて、競技者は予め決められた期間内に達成された当該種目の有効な記録のリストから、または適用される規定によって、シードを決定し、ジグザグ配置によって予選の組を決める。	最初のラウンドにおいて、競技者は予め決められた期間内に達成された当該種目の有効な記録のリストから、または適用される規定によって、 順位づけを行う。
TR20.3.3	競技者をジグザグに配置する。	TR20.3.1 および 20.3.2 で作成した順位づけをもとに、 競技者をジグザグに配置する。
TR20.4 〔注意〕 i	ワールドランキングコンペティション定義 1.(d)、(e) と 2. に該当する競技会における 800m 競走は、それぞれのレーンで 1 名または 2 名の競技者が走ってもよいし、弧形のライン後方からスタートするグループスタートでもよい。ワールドランキングコンペティション定義 1.(a)、(b)、(e) と 2.(a)、(b) に該当する競技会においては、同着で、あるいは審判長またはジュリーの判断で次のラウンドに進出する競技者の数が増えた場合を除いて、このスタート方式は予選にのみ適用することが望ましい。	800m 競走では、各レーンに 1 人または 2 人の選手を割り当てて行うことができる。 但し、ワールドランキングコンペティション定義 1.(a)、(b)、(c) および 2.(a)、(b) に該当する競技会では、同成績あるいは審判長またはジュリーの判断で次のラウンドに進出する競技者の数が利用可能なレーン数を超える場合を除き、 1レーンに 2 人の競技者を割り当てることは、通常、最初のラウンドでのみとする。 ワールドランキングコンペティション定義 1.(e)、2.(e) および 3. に該当する競技会では、 800m 競走は弧状のスタートラインの使用や、グループスタートをさせることで、レーンを使用せずに実施することもできる。
TR22.7	TR22.6.1 および 22.6.2 の場合を除いて、ハードルを倒しても失格にしてはならない。また記録も認められる。	TR22.6.2 および 22.6.3 の場合を除いて、ハードルを倒しても失格にしてはならない。また記録も認められる。
TR23.5 〔国際〕	障害物の標準の高さは、男子・U20 男子が 914 mm (±3 mm)、U18 男子が 838 mm (±3 mm)、女子が 762 mm (±3 mm)、幅は少なくとも 3m940 とする。障害物の最上部のバーと水濠に接した障害物の最上部のバーは 127 mm (±3 mm) の正方形とする	障害物の標準の高さは、男子・U20 男子が 914 mm (±3 mm)、U18 男子が 838 mm (±3 mm)、 女子・U20 女子・U18 女子 が 762 mm (±3 mm)、幅は少なくとも 3m940 とする。障害物の最上部のバーと水濠に接した障害物の最上部のバーは 127 mm (±3 mm) の正方形とする

TR24.3	… レーン内で行われる各バトンの受け渡しについて、担当する競技役員は、各競技者が正しいテイク・オーバー・ゾーン的位置にいることを確認する。その競技役員は TR24.4（マーカーの数とサイズ）が確実に遵守されるようにしなければならない。	… レーン内で行われる各バトンの受け渡しについて、担当する 監察員 は、各競技者が正しいテイク・オーバー・ゾーン的位置にいることを確認する。その 監察員 は TR24.4（マーカーの数とサイズ）が確実に遵守されるようにしなければならない。
TR24.4	… 規則に違反しているマーカーがあれば、規則に合わせるよう、あるいは剥がすよう、審判員は当該競技者を指導する。指導に従わない場合は、審判員が剥がさなくてはならない。	… 規則に違反しているマーカーがあれば、規則に合わせるよう、あるいは剥がすよう、 監察員 は当該競技者を指導する。指導に従わない場合は、 監察員 が剥がさなくてはならない。
TR24.5	… 競技者はバトンを受け取りやすくする目的で手袋をはめたり、TR6.4.3 で認められた以外の何かを手につけたりすることはできない。	… 競技者はバトンを受け取りやすくする目的で手袋をはめたり、TR6.4.3 で認められた以外の何かを手 やバトン につけたりすることはできない。 この規則に従わなければ、そのチームは失格となる。
TR25.3.2	サークルから行う投てき競技では、マーカーを1個だけ使用することができる。このマーカーはサークルの直後あるいはサークルに接して置くことができるが、線上や着地場所に置くことはできない。…	サークルから行う投てき競技では、マーカーを1個だけ使用することができる。このマーカーはサークルの すぐ後ろ、あるいはサークルに接する地面にのみ に置くことができるが、線上や着地場所に置くことはできない。…
TR25.6	… 前半の3回の各試技のラウンドで有効試技が一つもない1名以上の競技者にも後半の試技が許されるが、その試技順は有効試技のある競技者の前とし、複数いる場合は当初のスタートリスト順とする。	… 前半の3回の各試技のラウンドで有効試技が一つもない1名以上の競技者にも後半の試技が許されるが、そのような競技者の試技順は有効試技のある競技者の前とし、複数 の競技者が いる場合は当初のスタートリスト順とする。
TR25.17	… 棒高跳における時間は、競技者からの事前の申告に従ってバーが調整された時から開始する。さらに調整するための追加時間は認められない。	… 棒高跳における時間は、競技者からの事前の申告に従ってバーが調整された時から開始する。
TR25.17 〔注意〕 i	… 加えて試技に許される時間（試技時間）が残り15秒になった時から、審判員は通常、黄旗を挙げ続けるか、その他の方法で適切に知らせる。黄旗以外の視覚的な表示物を使用することも認められる。	… 加えて試技に許される時間（試技時間）が残り15秒になった時から、審判員は通常、黄旗を挙げ 続ける 。黄旗以外の視覚的な表示物を使用することも認められる。
TR25.17 〔注意〕 ii	走高跳と棒高跳の場合、試技時間の変更は（同じ高さで先に試技をした競技者が競技を終え、人数が減っても）連続試技である場合を除き、バーが新しい高さに上げられるまで適用しない。	走高跳と棒高跳の場合、試技時間の変更は（同じ高さで先に試技をした競技者が競技を終え、人数が減っても）連続試技である場合を除き、バーが新しい高さに 置かれる まで適用しない。
TR26.2	走高跳と棒高跳において他の全ての競技者が競技を終えていて、ある競技者がその場に不在の場合、与えられた試技時間が経過した後、審判長はその競技者は競技を放棄したと見なすものとする。	走高跳と棒高跳において他の全ての競技者が競技を終えた時に、 一人以上の 競技者がその場に不在の場合、与えられた試技時間が経過した後、審判長はその競技者は競技を放棄したと 見なす 。
TR26.2 グリーン	TR26.2 において、高さを競う跳躍ではある高さを1回目または2回目の試技でクリアした場合には、同じ高さの2回目または3回目を跳躍することは…	TR26.2 において、高さを競う跳躍ではある高さを1回目または2回目の試技で パス した場合には、同じ高さの2回目または3回目を跳躍することは…
TR26.8.4 グリーン	ジャンプオフを終了するには、いくつかの方法がある。	ジャンプオフを キャンセルしたり終了したり するには、いくつかの方法がある。
TR26.9	—	〔国内〕 上位大会出場枠の最終順位に同順位の競技者がいた場合、その出場者の決定にあたっては、1位決定のジャンプオフ方式を適用することができる。

TR26.9.5	A、B、C、D、Eはいずれも1m88を2回目に成功した。 <TR26.8 および 26.9 の適用方法> 審判員は同記録を生じた高さを含む無効試技数を数える。EはA,B,C,Dよりも無効試技数が多いので第5位となる。	A、B、C、D、Eはいずれも1m88を2回目に成功した。 <TR26.8 および 26.9 の適用方法> 4人の競技者全員が、最後に跳んだ高さを同じ回数でクリアした。 審判員は同記録を生じた高さを含む無効試技数を数える。EはA,B,C,Dよりも無効試技数が多いので第5位となる。
TR26.10.2	その他の状況では、新試技が許される。	その他の状況では、 代替試技が認められる。
TR27.8	… バー止はバーとバー止の表面が摩擦を増加する効果のあるゴムや他の材質で覆ってはならない。また、バネのようなものも一切使用してはならない。	… バー止は、 ゴムで、あるいはバーの両端部との間の摩擦を増加させる効果のあるその他の材質で作られたり、覆われたりしてはならない。 また、バネのようなものも一切使用してはならない。
TR28.1	… もし、競技者がバーの位置の変更を求めた時は、事前に申告した希望位置でバーがセットされる前に審判員に申し出る。これを怠って変更しようとする場合は、新しい位置にセットする時間も制限時間に含まれる。試技時間が開始されたら、バーの高さをそれ以上変更することはできない。	… もし、競技者がバーの位置の 変更を希望する時は 、事前に申告した希望位置でバーがセットされる前に、審判員に申し出る。試技時間が開始されたら、 バーの位置を それ以上変更することはできない。
TR28.10	… バー止はバーとバー止の表面が摩擦を増加する効果のあるゴムや他の材質で覆ってはならない。また、バネのようなものも一切使用してはならない。	… バー止は、 ゴムで、あるいはバーの両端部との間の摩擦を増加させる効果のあるその他の材質で作られたり、覆われたりしてはならない。 また、バネのようなものも一切使用してはならない。
TR28.10 〔注意〕	競技者が支柱の基部に落下して怪我をすることを防ぐために、バー止は支柱に恒久的に取りつけられた張出し部分につけてもよく、こうすることでバーの長さを延長することなく支柱の間隔を拡げることができる。	競技者が支柱の基部に落下して怪我をすることを防ぐために、バー止は支柱に恒久的に取りつけられた 支持部分の上 につけてもよく、こうすることでバーの長さを 延ばす ことなく支柱の間隔を拡げることができる。
TR29.9	跳躍の計測は有効試技終了後…、直ちに行わなければならない。跳躍距離は身体の一部または身に付けていたものが着地場所に残した痕跡の踏切線に最も近い箇所から、…。	跳躍の計測は有効試技終了後…、直ちに行わなければならない。跳躍距離は身体の一部または 着地する瞬間に身に付けていたもの が着地場所に残した痕跡の踏切線に最も近い箇所から、…。
TR30.1 グリーン	(TR30.3から移動)	TR30.1.1 は踏切時の靴と足の前部の位置に着目しており、…関係がない。 同様に、靴紐の緩みなどが垂直面を出たとしても、判定には関係ない。
TR30.3 グリーン	TR30.1.1 は踏切時の靴と足の前部の位置に着目しており、…関係がない。 同様に、靴紐の緩みなどが垂直面を出たとしても、判定には関係ない。	(TR30.1へ移動)
TR32.1 〔国内〕	ワールドランキングコンペティションでは WA 認証品のみを使用する。但し、WA 認証品かどうかの証明は、持込んだ競技者が行う。	ワールドランキングコンペティションでは、 本連盟検定品かつ WA 認証品のみを使用する。但し、WA 認証品かどうかの証明は、持込んだ競技者が行う。

<p>TR32.7 図</p>		<p>寸法表示部分</p> <p>厚み 6mm 以上×深さ 70~80mm</p>
<p>TR32.14.2 〔注意〕 ↓ TR32.14 〔注意〕</p>	<p>… また、靴の緩んだ部分（靴紐など）や衣服、身体につけていたその他のアイテム（帽子など）が、投てき開始時、投てき中または投てき後に、足留材上部に触れたとしても、無効とは見なさない。</p>	<p><u>i 靴の緩んだ部分（靴紐など）や衣服、身体につけていたその他のアイテム（帽子など）が、投てき開始時、投てき中または投てき後に、足留材上部に触れたとしても、無効とは見なさない。</u></p>
<p>TR32.14 〔注意〕</p>	<p>i 競技者の投げた円盤またはハンマーの頭部が…見なす。 ii 競技者の投げた円盤やハンマーの一部が…見なさない。</p>	<p>ii 競技者の投げた円盤またはハンマーの頭部が…見なす。 iii 競技者の投げた円盤またはハンマーの一部が、…見なさない。</p>
<p>TR32.14 グリーン</p>	<p>… TR32.14.2 が意図しているのは、サークルの限界を定めた目的を重視し、競技者がサークルから正しく出るまでサークル内に留まることを遵守させることである。</p>	<p>… TR32.14〔注意〕 i が追加されたことにより、TR32.14.2 ~32.14.4 が意図しているのは、サークルまたは助走路の制限を設けている目的を重視し、競技者が正しく出るまでサークルまたは助走路内に留まるようにすることであることが確認できる。</p>
<p>TR32.16</p>	<p>砲丸、円盤、ハンマーの頭部、やりの頭部が最初に着地して残した痕跡が、角度線や角度線の外側地面、あるいは他の物体（TR32.14〔注意〕 ii による囲いを除く）に触れた場合は、無効試技とする。</p>	<p>砲丸、円盤、ハンマーの頭部、やりの頭部が最初に着地して残した痕跡が、角度線や角度線の外側地面に触れた場合は無効試技とする。このほか、投てき後、地面に接する前に砲丸、円盤、ハンマーの頭部、やりの頭部が角度線の外側にある物体（TR32.14〔注意〕 ii による囲いを除く）に触れた場合は無効試技とする。</p>
<p>TR32.17</p>	<p>投げた用具（投てき物）が着地する前に競技者がサークルや助走路から出た場合や以下の場合は、無効試技とする。 32.17.1 サークルからの投てきではサークルを出る際に、… 〔注意〕 縁枠の上部…離脱と見なす。 32.17.2 やり投では競技者が助走路を離れる際に、…</p>	<p>以下の場合は無効試技とする。 32.17.1 投げた用具（投てき物）が着地する前に競技者がサークルや助走路から出た時。 32.17.2 サークルからの投てきではサークルを出る際に、… 〔注意〕 縁枠の上部…離脱と見なす。 32.17.3 やり投では競技者が助走路を離れる際に、…</p>
<p>TR32.17 グリーン</p>	<p>TR32.17.2の2番目と3番目の文章は判定の過程をスピードアップすることが目的であり、競技者にさらなる無効試技を課するためのものではない。</p>	<p>TR32.17.3の2番目と3番目の文章は判定の過程をスピードアップすることが目的であり、競技者にさらなる無効試技を課するためのものではない。</p>
<p>TR34.1</p>	<p>… 縁の曲線部の始めから円盤の厚みは、縁の最大厚のDの部分まで規則的に増加する。</p>	<p>… 縁の曲線部の始めから円盤の厚みは、最大の厚さ値Dの部分まで規則的に増加する。</p>
<p>TR35.4 〔国際〕</p>	<p>網目の中心の大きさは、紐で作られた場合は最大45mm、鋼製ワイヤーの場合は最大50mmとする。目の大きさは、紐で作られた場合は最大45mmとする。</p>	<p>隣接する網目の中心間の距離は、紐で作られた場合は最大45mm、鋼製ワイヤーの場合は最大50mmとする。</p>

TR37.4 〔注意〕 i	左側の可動パネルは右投げの競技者、右側のパネルは左投げの競技者のために使用される。右投げ、左投げ両方の競技者が参加している競技会で、一方の可動パネルと他方のパネルを動かす必要がある場合、…	左側の可動パネルは 反時計回り で投げる競技者、右側のパネルは 時計回り で投げる競技者のために使用される。 反時計回り、時計回り の両方の競技者が参加している競技会で、一方の可動パネルと他方のパネルを動かす必要がある場合、…
TR37.5 〔国際〕	網目の中心の大きさは、紐で作られた場合は最大45mm、鋼製ワイヤーの場合は最大50mmとする。目の大きさは、紐で作られた場合は最大45mmとする。	隣接する網目の中心間の距離は 、紐で作られた場合は最大45mm、鋼製ワイヤーの場合は最大50mmとする。
TR38.2 グリーン	(TR38.3から移動)	以前の規則で使われていたやりの「先端」という表現は削除され、…または「後部から先に」着地した場合は依然として無効試技であり、判定時には赤旗を示す。
TR38.3	投げる用意をしてからやりが空中に投げられるまでの間に、競技者はその背面をスターティング・ラインに向けるように完全に回転させることはできない。	投げる用意をしてからやりが空中に投げられるまでの間に、競技者はその背面をスターティング・ラインに向けるように完全に回転させることはできない。 〔注意〕 この規則は助走と投げる動作に関するものであり、投げる動作を始める前や、投げる動作を中断して後ろに下がることに関するものではない。
TR38.3 グリーン	以前の規則で使われていたやりの「先端」という表現は削除され、…または「後部から先に」着地した場合は依然として無効試技であり、判定時には赤旗を示す。	(TR38.2へ移動)
TR38.11 図		重さ 末尾部分（カッコ部分）削除
TR41.3 WA	全てのトラック走路、助走路または踏切場所の表面は、長さ6mmのスパイク・シューズに対応できる合成物質で覆われている必要がある。	全てのトラック走路、助走路または踏切場所の表面は、長さ6mmのスパイク・シューズに対応できる合成物質で覆われている必要がある。 但し、トラック舗装材業者または競技場施設管理者は、最大9mmのスパイクの使用を認めることができる。
TR43.1	… 縁石または白線の内側の端はトラック全体を通して水平でなければならない。この縁石または白線はトラックの傾斜部分の長さ全体にわたって傾斜や勾配を考慮し、傾斜面に沿って配置する。二つの直走路の縁石を取り除き、50mm幅の白線で代用してもよい。	… 縁石または白線の内側の端はトラック全体を通して水平でなければならない。この縁石または白線はトラックの傾斜部分の長さ全体にわたって傾斜や勾配を考慮し、傾斜面に沿って配置する。
TR44.6 〔注意〕 i ↓ TR44.6.3 〔注意〕 i	ワールドランキングコンペティション定義1. (a)、(b)、(c)と2. (a)、(b)に該当しない競技会においては、800mについては参加チームの合意によりレーンを使用しないで行うことができる。	ワールドランキングコンペティション定義1. (e)と2. (e)に該当する競技会においては、800mについては参加チームの合意によりレーンを使用しないで行うことができる。
TR44.6 〔注意〕 ii ↓ TR44.6.3 〔注意〕 ii	6レーン未満のトラックでは、6人での競走を可能とするためにグループスタートを用いてもよい。	6レーン未満のトラックでは、 6人での競走で グループスタートを用いてもよい。
TR52.3.3	扇形ラインをサークル中心から34.92度の角度で放射状に引いて完全な着地場所を設けるか、両側のラインを34.92度の扇方の中心線と平行にして設けてもよい。着地場所を示すラインを平行にするにあたっては、両方のラインの間隔は最小9mでなくてはならない。	扇形ラインをサークル中心から34.92度の角度で放射状に、着地場所の幅が少なくとも9mになるまで引く。そこからは着地場所の中心線と平行になるように引く。

TR54.1	競歩競技の標準となる距離は、ショート・トラックでは3,000m、5,000mとし、400mトラックでは5,000m、10,000m、20,000m、35,000m、50,000mとする。道路のコースでは10km、20km、35km、50kmとする。	(2025年12月31日まで) 競歩競技の標準となる距離は、ショート・トラックでは3,000m、5,000mとし、400mトラックでは5,000m、10,000m、20,000m、35,000m、50,000mとする。道路のコースでは10km、20km、35km、50kmとする。 (2026年1月1日から) 競歩競技の標準となる距離は、ショート・トラックでは3,000m、5,000mとし、400mトラックでは5,000m、10,000m、 ハーフマラソン(21,097.5m) 、 マラソン(42,195m) 、50,000mとする。道路のコースでは10km、 ハーフマラソン(21.0975km) 、 マラソン(42.195km) 、50kmとする。																																														
TR54.4.1 〔国内〕 ii	TR54.4.1 に定める特定の競技会以外の競技会で、主任単独による失格権限を適用する場合には、主催者は本連盟に事前に申告するものとする。なお、その場合の競歩審判員主任は JRWJ とする。	R54.4.1 に定める特定の競技会の主任は WARWJ または JRWJ とする。また、それ以外の競技会で主任単独による失格権限を適用する場合には、主催者は本連盟に事前に申告するものとする。なお、その場合の競歩審判員主任は JRWJ とする。																																														
TR54.7.3	<table border="1" data-bbox="365 792 823 1061"> <thead> <tr> <th>距離 (その長さを含む)</th> <th>時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,000m・5km まで</td> <td>30 秒</td> </tr> <tr> <td>10,000m・10km まで</td> <td>1 分</td> </tr> <tr> <td>20,000m・20km まで</td> <td>2 分</td> </tr> <tr> <td>30,000m・30km まで</td> <td>3 分</td> </tr> <tr> <td>35,000m・35km まで</td> <td>3 分 30 秒</td> </tr> <tr> <td>40,000m・40km まで</td> <td>4 分</td> </tr> <tr> <td>50,000m・50km まで</td> <td>5 分</td> </tr> </tbody> </table>	距離 (その長さを含む)	時間	5,000m・5km まで	30 秒	10,000m・10km まで	1 分	20,000m・20km まで	2 分	30,000m・30km まで	3 分	35,000m・35km まで	3 分 30 秒	40,000m・40km まで	4 分	50,000m・50km まで	5 分	(2025年12月31日まで) <table border="1" data-bbox="991 779 1449 1048"> <thead> <tr> <th>距離 (その長さを含む)</th> <th>時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,000m・5km まで</td> <td>30 秒</td> </tr> <tr> <td>10,000m・10km まで</td> <td>1 分</td> </tr> <tr> <td>20,000m・20km まで</td> <td>2 分</td> </tr> <tr> <td>30,000m・30km まで</td> <td>3 分</td> </tr> <tr> <td>35,000m・35km まで</td> <td>3 分 30 秒</td> </tr> <tr> <td>40,000m・40km まで</td> <td>4 分</td> </tr> <tr> <td>50,000m・50km まで</td> <td>5 分</td> </tr> </tbody> </table> (2026年1月1日から) <table border="1" data-bbox="975 1077 1465 1312"> <thead> <tr> <th>距離 (その長さを含む)</th> <th>時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,000m・5km まで</td> <td>30 秒</td> </tr> <tr> <td>10,000m・10km まで</td> <td>1 分</td> </tr> <tr> <td>21,097.5m・21 km 0975 まで</td> <td>2 分</td> </tr> <tr> <td>30,000m・30km まで</td> <td>3 分</td> </tr> <tr> <td>42,195m・42 km 195 まで</td> <td>4 分</td> </tr> <tr> <td>50,000m・50km まで</td> <td>5 分</td> </tr> </tbody> </table>	距離 (その長さを含む)	時間	5,000m・5km まで	30 秒	10,000m・10km まで	1 分	20,000m・20km まで	2 分	30,000m・30km まで	3 分	35,000m・35km まで	3 分 30 秒	40,000m・40km まで	4 分	50,000m・50km まで	5 分	距離 (その長さを含む)	時間	5,000m・5km まで	30 秒	10,000m・10km まで	1 分	21,097.5m・21 km 0975 まで	2 分	30,000m・30km まで	3 分	42,195m・42 km 195 まで	4 分	50,000m・50km まで	5 分
距離 (その長さを含む)	時間																																															
5,000m・5km まで	30 秒																																															
10,000m・10km まで	1 分																																															
20,000m・20km まで	2 分																																															
30,000m・30km まで	3 分																																															
35,000m・35km まで	3 分 30 秒																																															
40,000m・40km まで	4 分																																															
50,000m・50km まで	5 分																																															
距離 (その長さを含む)	時間																																															
5,000m・5km まで	30 秒																																															
10,000m・10km まで	1 分																																															
20,000m・20km まで	2 分																																															
30,000m・30km まで	3 分																																															
35,000m・35km まで	3 分 30 秒																																															
40,000m・40km まで	4 分																																															
50,000m・50km まで	5 分																																															
距離 (その長さを含む)	時間																																															
5,000m・5km まで	30 秒																																															
10,000m・10km まで	1 分																																															
21,097.5m・21 km 0975 まで	2 分																																															
30,000m・30km まで	3 分																																															
42,195m・42 km 195 まで	4 分																																															
50,000m・50km まで	5 分																																															
TR54.7.5	TR54.7.3 を適用するいかなる場合でも、…行われなければならない。もし、通知を怠ったとしても、当該競技者の失格が取り消されることはない。	TR54.7.3 を適用するいかなる場合でも、…行われなければならない。 但し、告知ができなくとも失格した競技者の失格が取り消しとなることはない。																																														
TR54.10.5	(TR54.10.6から移動)	…競技者を妨害してはならない。 <u>いかなる状況にあっても飲食物や水を取る際、競技役員や承認を得た者であっても競技者と並んで移動してはならない。</u>																																														
TR54.10.6	… <u>いかなる状況にあっても飲食物や水を取る際、競技役員や承認を得た者であっても競技者と並んで移動してはならない。</u>	(TR54.10.5へ移動)																																														
TR55.1	道路競走の標準となる距離は 1 マイル、5 km、10 km、15 km、20 km、ハーフマラソン、25 km、30 km、マラソン(42 km 195)、50 km、100 kmおよびロードリレーとする。	道路競走の標準となる距離は 1 マイル (1,609.344m) 、5 km、10 km、15 km、 10 マイル(16 km 09344) 、20 km、ハーフマラソン (21 km 0975) 、25 km、30 km、マラソン(42 km 195)、50 km、100 kmおよびロードリレーとする。																																														

【公認審判員規程】

P.336	公認審判員として登録会員規程第2条に抵触した者は同規程第17条により登録会員処分規程に定められた処分の対象となる。	公認審判員として登録会員規程第2条に抵触した者は同規程 第15条 により登録会員処分規程に定められた処分の対象となる。
-------	---	--

【陸上競技場公認に関する細則 別表2】

P.414	競歩用掲示板 縦1000mm×横800mm	競歩用掲示板 縦 860mm 以上 ×横 800mm 以上
-------	--------------------------	--